

2015年2月27日

McLaren 675LT :

パワー、それは美しき存在

- マクラーレン ‘ロングテール’の伝説を蘇らせる McLaren 675LT — 徹底した軽量化、最適化されたエアロダイナミクス、高められたパワー、サーキット志向のダイナミクス、そしてドライバーとの一体感を実現
- 加速性能: 0-100km/h は 2.9 秒、0-200km/h は 7.9 秒
- 100kg の軽量化を受け、クラス最軽量の 675LT はパワー・ウェイト・レシオ 549PS/t を実現
- マクラーレン・スーパーシリーズの McLaren 650S との対比では、全体の 1/3 のパーツを変更
- 675LT に搭載される M838TL エンジンは、更なる強化を経て、50%以上の新たなコンポーネントを採用
- 5 種類のユニークな ‘By McLaren’ hero specifications — 675LT のためにカスタマイズされたスペック
- 2015年3月3日(火) 0:15(CET) / 11:15(GMT)ジュネーブ国際モーターショー Stand 1240 において McLaren 675LT 世界初公開

2015年2月25日 英国発 名門 Formula 1™チーム、マクラーレンのグループ企業であるスポーツカーメーカー、マクラーレン・オートモーティブ(本社: 英国サリー州、エグゼクティブ・チェアマン: ロン・デニス)は、McLaren 675LT の世界初公開に先立ち、パフォーマンス・データを発表いたしました。

第 85 回ジュネーブ国際モーターショーで世界デビューを果たす McLaren 675LT は、パフォーマンスと軽量化、そしてドライバーとの究極的な次元の一体感を明確な開発目標としたモデルで、これらの目標に応える鍵となるものがマクラーレンの ‘ロングテール’ でした。クーペ・モデルのみが販売される 675LT は、マクラーレン・スーパーシリーズのうち最もサーキット志向の高いモデルで、オンロード走行のための法的基準も満たしながら、パワー・ウェイト・レシオではライバル達の追従を許しておりません。0-100km/h まで、わずか 2.9 秒で到達する 675LT のスプリント能力は、トラクションを最適に制御する優秀なドライブレインによるものです。加速性能についても妥協はしておらず 0-200km/h までは 8 秒の壁を破る 7.9 秒で到達。最高速度も 330km/h を記録する驚異のパフォーマンスを誇ります。

McLaren 675LT のファーストイメージには、従来モデルよりもさらにアグレッシブさが増したマクラーレン・ブランドが表現されております。カーボン・ファイバー製エクステンデッド・フロント・スプリッターから、エクステンデッド・サイド・ドアブレードと新たに追加された冷却用エアインテーク、そして 2 本の円形状のチタン製エグゾースト・パイプに至る、アグレッシブなスタイリングは走りを感じさせます。そのスタイリングは、マクラーレン・スーパーシリーズのなかで、もっともパワフルかつ軽量のモデルである 675LT が発揮できるパフォーマンスのヒントとなっております。675LT に装着されているアクティブ ‘ロングテール’ エアブレイキは、650S より 50%拡大されておりますが、カーボン・ファイバー構造の採用によって重量は軽減されております。こうした改良の積み重ねの結果、乾燥重量はわずか 1,230kg に収まっております。

3.8リッターV8 ツインターボ・エンジンは、50%以上のパーツを変更することで、パワーとトルク、そしてドライバビリティを向上させております。今回のアップグレードでは、さらに効率化された新型ターボを採用したほか、シリンダー・ヘッドとエキゾースト・マニホールドの設計に対する細かな見直しや、新型カムシャフト、軽量コネクティング・ロッドの採用、フューエル・ポンプと燃料供給システムの高速度などの改良を行っております。このような大がかりな改良を行ったため、このエンジンには M838TL という専用のコードが与えられました。軽量[low weight]かつ、低イナーシャ・パワー[low inertia power]の特徴をもつパワーユニットの最高出力は、'675LT'の名が示すとおり 675PS、パワー・ウェイト・レシオも 549PS/t という驚異的な数値を達成しております。

McLaren 675LT はサーキットにフォーカスしながらも、オンロード走行での法的基準を満たすため、並行して生産が継続されるマクラーレン・スーパーシリーズの 650S Coupe / Spider と比較し、全体の1/3 のパーツを変更しております。675LT は、McLaren F1 GTR 'ロングテール' の 'LT' から由来し、アイコン的な前身モデルと同じく、ドライブしても、見ているだけでもエキサイティングな感覚を呼び覚ますモデルです。'ロングテール' の精神を支えるマシン特性についても受け継がれており、軽量化やエアロダイナミクスの最適化、強化されたパワー、サーキット志向のダイナミクス、ドライバーとの一体感が実現されております。

‘ロングテール’ 成功のカギ： 軽量化とエアロダイナミクス

1997年にデビューした McLaren F1 GTR 'ロングテール' では、ロングボディ化されたにも関わらず、大成功を収めた先代モデルよりも 100kg 以上の軽量化を達成いたしました。約 20 年前と同じように、軽量化は McLaren 675LT 開発プログラムの最重要テーマでした。675LT は、他のスーパーシリーズの長所を受け継ぎ、他のスーパーシリーズと比較して 100kg 以上の軽量化を実現しております。この軽量化の成果は、軽量のエンジン、シャシー、ボディ構造に加えて、各所のボディ・パネルへの積極的なカーボン・ファイバーの採用により実現しております。軽量化を追求し、さらに求められる機能を提供するために、エア・コンディショニングも取り外されておりますが、費用負担なしでオプションとして装着することも可能となっております。

新たなデザインのフロント・バンパーの下部には、エアフローをさらに効率化するカーボン・ファイバー製フロント・スプリッターが装着されております。このスプリッターはフロントに流れ込むエアを効率よく排出し、フロント・ボディワークにおけるダウンフォースを向上させるフロント・ウィングのエンド・プレートを補完しております。フロント・ホイールアーチで発生する乱気流は、リアに到達するまでにサイドボディの下部を沿うように後部まで伸びる立体的なカーボン・ファイバー製サイド・シルによって '整流' されます。リア・ホイールアーチの前縁には巧妙に装着されたエアインテークと、さらに下方のドア後部には、存在感を主張するサイド・インテークが装着されており、2 つのインテークを通り、整流された冷たい空気が側面に配置されたラジエーターへと供給されます。

McLaren 675LT のエアロ・バランスを最適化するのが、他のスーパーシリーズ・モデルより 50%ほど拡張され、McLaren F1 GTR 'ロングテール' を想起させるアクティブ 'ロングテール' エアブレーキです。またデザインについても、カーボン・ファイバー製リア・ウィングが見直されております。リア・ウィングの下部には、むき出しのボディワークから、円形状をした 2 本のチタン製エグゾースト・パイプが中央部に配されております。さらに手の込んだデザインにも関わらず、この 675LT のためにビスボークされたクロスオーバー・システムにより、パフォーマンスは最適化されつつ、重量は 1.1kg 削減されております。むき出しのリア・デッキとエグゾースト・パイプの周囲は、エンジン・ベイから効率的に放熱するためのデザインを採用し、軽量のポリカーボネート製リア・スクリーンもルーバー仕様となっております。カーボン製リア・ディフューザーにより、リア・デザインはドラマチックに仕上がりがつつ、ルーバー仕様のカーボン・ファイバー製リア・バンパーによって空気抵抗が低減されております。

675LT のために用意された 5 つのユニークなテーマ ‘By McLaren’ hero specifications

McLaren 675LT には、5 つのユニークなテーマをもつ特別なスペック ‘By McLaren’ hero specifications を用意しております。シリカ・ホワイト、デルタ・レッド、ネーピア・グリーン、シケインの 4 色を 675LT 専用カラーリングとして用意しております。そして 4 色の専用色に加えて、有名で伝統を持つマクラーレン・オレンジも 675LT をユニークなテーマで演出いたします。また、675LT 専用の 5 色のカラーリングと効果的なコントラストを演出しているそれぞれのインテリアは、無駄はそぎ落としつつ、厳選した素材とカラーを用いております。

McLaren 675LT のインテリアは、何よりもドライバーとの一体感にフォーカスしており、サーキット走行でのポテンシャルを期待させます。2 脚の超軽量カーボン・ファイバー・シェル構造のバケット・シートは、McLaren P1™ と同じ仕様で、素材には Alcantara® を標準で採用しており、重量に犠牲を払わずに、快適さと安全性をもたらしております。シートのヘッドレストにデザインされた 675LT のロゴは、レブカウンターにも見られます。他のスーパーシリーズからの変更点として、エア・コンディショニングのコントロールは、直感性に優れたタッチスクリーン式インフォテインメント・システムに組み込まれております。

McLaren 675LT は、2015 年 3 月 3 日(火) 12:15(CET) / 11:15(GMT)に、
第 85 回ジュネーブ 国際モーターショーにおいて全世界向けにデビューを果たします。

McLAREN 675LT TECHNICAL STATISTICS

PERFORMANCE

0-100km/h	2.9 秒
0-200km/h	7.9 秒
最高速度	330km/h
パワー・ウェイト・レシオ	549PS/tonne

ENGINE & POWERTRAIN

エンジン形態	V 型 8 気筒ツインターボ/3,799cc
最高出力	675PS (666) @ 7,100 rpm
最大トルク	700 Nm (516 lb ft) @ 5,500-6,500 rpm
トランスミッション	7 速デュアルクラッチ式シームレス・シフトギアボックス (SSG)
CO ₂ 排出量	275 g/km

DIMENSIONS & WEIGHT

乾燥重量	1,230kg
重量配分	42.5 / 57.5
車長	4,546mm
車幅	2,095mm
車高	1,188mm

本プレスリリースは参考翻訳です。原文および画像はマクラーレンのメディアサイト(英語)からご覧いただけます。ダウンロードする際は登録が必要です。

URL: <http://media.mclarenautomotive.com/>

マクラーレン・オートモーティブについて:

マクラーレン・オートモーティブは、ラグジュアリーかつハイパフォーマンスなスポーツカーを製造する英国の自動車メーカーで、サリー州ウォーキングのマクラーレン・テクノロジー・センター(MTC)を拠点としています。

マクラーレン・オートモーティブでは 2010 年の設立後、2011 年に画期的な McLaren 12C の発表を皮切りに、2012 年に 12C Spider、2013 年に限定生産の McLaren P1™を発表しました。毎年新型モデルを導入するという計画を掲げ、2014 年には McLaren 650S Coupe と 650S Spider を発表し、さらに 2015 年のマクラーレン・スポーツシリーズ導入を発表しています。マクラーレン・ブランドは拡大を続けており、オンロードカーの生産 3 年目となる 2013 年度には業績の黒字化を達成、2014 年度もセールスは引き続き好調で世界の主要自動車市場における、独自のグローバル・ディーラー・ネットワークを通じて 1,648 台のマクラーレンを納車しています。

マクラーレン・オートモーティブの技術パートナー:

革新的で高い評価を獲得しているスポーツカー・ラインアップの開発、エンジニアリング、製造においてマクラーレン・オートモーティブは専門的なノウハウと技術を提供する世界トップレベルの企業と提携しています。主なパートナーは、アクゾノーベル、エクソンモービル、ピレリ、SAP などです。

サーキット用に設計しオンロード用に開発:

マクラーレンにおける Formula 1™マシンとロードカーの融合には、経験、知識、原理、プロセスが活用されています。Formula 1™レースでの 50 年にわたる歴史の集大成と、画期的なスポーツカーの製造における 20 年以上の経験を活かして、マクラーレン・オートモーティブでは、技術的に優れた、画期的なハイパフォーマンス・スポーツカーを設計、開発および製造を行っています。オンロードとサーキットを走るマクラーレンのスポーツカーには一切の妥協もなされていません。

マクラーレンは車両製造にいち早くカーボン・ファイバーを採用し、30 年にわたる経験を有しています。1981 年の McLaren MP 4/1 や、1993 年の McLaren F1 といったレーシングカーやロードカーにカーボン・シャシーを導入しており、これまでマクラーレンが製造した車両はすべてカーボン・ファイバー・シャシーが採用されています。

マクラーレン・オートモーティブの日本オフィシャルフェイスブックは、下記の URL からご覧いただけます。

URL: <https://www.facebook.com/mclarenautomotiveJP>

本件に関するお問い合わせ先

マクラーレン・オートモーティブ・アジア 日本支社

担当: 有澤 久美子

TEL 03-5572-7007